

# うぶすな

～ふるさどを見る・知る・探す！～



版画：岩田健三郎氏 (福崎町福田の固率倉)

第2号

## 『故郷七十年』を読もう！

柳田國男・松岡家記念館顧問  
東京学芸大学 人文社会科学系  
日本語・日本文学研究講座教授

石井 正己

かつて日本人は、柳田國男の著作によって生活の意味を知ることができた。だが、伝統的な生活が消滅し、その内容を理解することが困難になった。柳田の著作は、もはや古典になったと言っている。この貴重な遺産を未来につなぐ手だてを真剣に考えなければならぬ。そうしなければ、柳田は忘れられてしまふという危機感が強い。

柳田の著作に注釈が必要になっているが、福崎町には『故郷七十年』がある。この本の重要さは誰もが認めるが、内実を知ることとは簡単ではない。柳田が語った詳細は、同郷の者にしかわからないことが多い。長い年月が経ったが、まだ遅くはあるまい。個々の事実を読み解いて公開することは、この町に暮らす者の責務ではないか。

『故郷七十年』を読み解くことは、柳田研究への貢献に留まらない。そうした作業を通して、故郷に対する愛着が深まるにちがいない。その成果は、柳田の思想を生かした町づくりの基盤になるだろう。そうした学びを一緒に深めてゆきたい。

## 神戸大学大学院人文学研究科 地域連携センター事業報告

神戸大学大学院人文学研究科  
地域連携センター学術推進研究員

井上 舞

福崎町との連携事業が始まって、四年が経ちました。自然に恵まれ、豊かな歴史文化を持つ福崎町で、歴史文化を活かす活動に携われることを、とても幸せに思います。

平成二四年度の事業では、『播磨国風土記』を主要研究テーマとしました。さらに、古代から近代にかけての地名調査を行うことによって、風土記の時代から現在に至るまで、連続と続く福崎の歴史の流れを見渡すことができました。

また同時に、柳田國男の兄で、『播磨国風土記新考』を著した井上通泰の研究にも取り組みました。柳田國男・松岡家記念館所蔵の書簡調査等を通じて、弟國男の影に隠れがちだった通泰の優れた業績を明らかにすることができました。

これらの研究では、聞き取り調査をはじめとして、町民の方々の多大なご協力をいただきました。この場をお借りしてお礼を申し上げます。

今後皆様とともに、福崎町の歴史を紐解き、新たな「うぶすな(故郷)」の魅力を発見していきたいと思っております。

# 神崎郡歴史民俗資料館

旧神崎郡役所／兵庫県指定文化財



神崎郡歴史民俗資料館と柳田國男・松岡家記念館では、平成25年の風土記編さん命令1300年目の節目の年に先がけて、『播磨国風土記』を両館共通のテーマとした特別展を開催しました。

平成24年度  
特別展

## 播磨国風土記

～いにしへの福崎地名探訪～

資料館では、『播磨国風土記』のなかの神前郡条を中心にご紹介したほか、原始から近現代にかけての福崎の歴史の移り変わりについての展示を行いました。

### 風土記とは

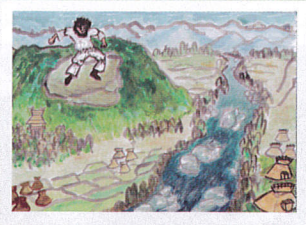
和銅6年(713)に、律令政府が諸国に命じてつくらせた地誌のことで、国ごとに地名の由来や産物、古伝承などが記されています。現存する風土記は、出雲・常陸・播磨・豊後・肥前の5か国だけです。なお、平成25年は、風土記編さんが命じられてから1300年目にあたる記念すべき年です。



### 神前郡条のこと



『播磨国風土記』の中の神前郡条には、神崎郡に関することが記されています。神前郡には、聖岡や高岡など6つの里が登場し、それぞれ地名に関する説話が収められています。聖岡里では、大汝命と小比古尼命という2人の神様のユニークな我慢比べの伝承が残されています。また、福崎町域に関しては、建石敷命が鎮座する神前山(神崎山)や檜で有名な奈具佐山(七種山)のほか、天日杵命の軍勢が8,000(八千)人いたことから名付けられた八千軍野(八千種)などが紹介されています。



## 30周年記念式典

平成24年10月に当館は、開館30周年を迎えました。これを記念して11月17日には開館30周年記念式典を行うことができました。式典では、福崎町立図書館のボランティアグループ「図書館応援隊」の皆さまの協力を得て、『播磨国風土記』の紙芝居や朗読を披露していただき、超満員の会場は、大きな拍手でつまれました。



### 次年度の予告

次年度は、4月に「くらしと民具」と題した企画展を行います。これは、10月からの特別展に関連して、くらしのなかの民具を紹介するものです。7月には、辻川山演奏会も予定しています。そして、10月からの特別展では、福崎の人々のくらしを、古文書や民具をとおしてご紹介します。皆さま、ぜひご来館ください。

### 今年度の報告

資料館では、皆さまの知的好奇心を満たす施設となることを目指し、今年度は「地域の歴史文化遺産は時代の扉をひらく鍵」をテーマに、5回の連続講座を行いました。また、9月には3回にわたって古文書講座も開催しました。さらに、町内小学校の5・6年生を対象に活動している「ふくさき歴史体験隊」は、全5回の活動を行いました。辻川界隈ウォークラリーやはにわづくりなど、体験や交流をとおして地域の歴史文化について学んでもらいたいと考えています。こうした教育普及活動のほか、私たち学芸員がより幅広い知識を身に着けるため、神戸大学と連携し、三木家の調査活動や特別展に向けての研究などを共同で行いました。

# 柳田國男・松岡家記念館／ 柳田國男生家

柳田國男生家／兵庫県指定文化財



平成24年度  
特別展

## 播磨国風土記

～井上通泰の風土記研究～

記念館では、井上通泰の著作である『播磨国風土記新考』の執筆過程をたどることで、通泰の風土記研究を紹介しました。また、書簡や書籍などの資料によって通泰の業績や人物像をお伝えしました。

### 井上通泰～その生涯と業績～

井上通泰は、松岡家の3男として誕生しました。そして、12歳のときに眼科医の井上家の養子となります。通泰は、家業である眼科医としての道を進みながらも、歌人・国文学者としても活躍をし、万葉集などの研究に取り組みました。



### 通泰の風土記研究～播磨国風土記新考～



『播磨国風土記新考』  
直筆原稿

通泰は、大正4年(1915)に弟の柳田國男の勧めを受けて『播磨国風土記新考』の執筆を開始します。そして、昭和5年(1930)に原稿を書き終え、昭和6年(1931)には書籍として刊行しました。通泰は播磨出身者の視点から『播磨国風土記』に出てくる地名の場所を考えました。そのために播磨の地誌を寄贈してもらい、知識を得ました。さらに播磨出身者の人々と会談し、地理情報を教えてもらいました。



『播磨国風土記新考』

このように通泰の研究に協力した人々の名前が、『播磨国風土記新考』に感謝の言葉とともに記されています。

## 講演会

平成24年11月18日には井上舞氏をお招きし、記念講演を行いました。関連資料や書簡から、通泰の業績や人となりを読み解いていただきました。会場からは感嘆の声や笑いが起こり、楽しく熱意あふれる講演となりました。



### 次年度の予告

次年度は、4月に映丘が描いた武者絵を中心とした企画展を行います。そして、10月には「福崎のくらし」を資料館との共通のテーマとした特別展を開催し、記念館では柳田國男が集めたくらしの言葉を紹介します。また、夏休み企画も予定していますので、ぜひご来館ください。

### 今年度の報告

記念館では、皆さまにより身近な施設となるために、特別展をはじめとしてさまざまな展示や行事を行いました。4月には企画展「松岡映丘画稿展～映丘の描く春～」を行いました。そして、8月には柳田國男没後50年記念第33回山桃忌(エルデホール)の開催にあわせて、企画展「みんなの福島展」を当館で開催するとともに、柳田國男生家で夏休み企画「生家で論語を学ぼう!」、紙芝居「柳田國男物語」を行いました。11月には伊勢大神楽、12月には岩田健三郎氏による版画教室を開催しました。多くの皆さまに足をお運びいただき、本当にありがとうございました。

# 記念館

記念館では、松岡映丘の画稿を約千点以上所蔵しています。画稿とは下書きにあたるものです。映丘は一つの作品を生み出すのに、和紙に鉛筆や筆で何度も下書きをしました。



「平清盛」 絵部

軸装などを施す補修作業を始めました。第一号「平清盛」、第二号「雛」と「矢表」をはじめ、現在も次々と補修を進めています。

# 紹介

和紙に描かれた画稿は非常に破れやすく、展示が難しい状態です。しかも、当館が所蔵する映丘画稿の約八割以上が、裏打ちがなされていません。そこで、平成二四年度から裏打ちをし、作品に応じて額装や

「平清盛」は、当館で四月に行った企画展で展示をしました。「矢表」と「雛」をはじめとする補修を終えた画稿も、展示を通して、その成果を皆さまにお伝えして参ります。

# 資料

歴史民俗資料館では、昨年、市川高瀬舟の四分の一の模型の寄贈を受けました。

高瀬舟とは、物資の輸送を主な目的とする小型の木造船のことで、浅瀬を航行するために船底が平らな造りになっていました。

# 歴史民俗資料館

加古川や揖保川などにも高瀬舟はありましたが、これらの船と市川の高瀬舟との大きな違いは、その輸送物資にあります。普通の高瀬舟が輸送するのは



「高瀬舟」

主に民間の物資でしたが、市川の高瀬舟の一部は、生野銀山からの鉱石を運ぶ御用金船としての役割を担っていました。つまり、現在で言うところの現金輸送車的な役割を持っていたのです。

こうした貴重な役割を持った市川高瀬舟の姿を、ぜひ当館でご覧いただけます。

# 歴史民俗資料館と周辺整備工事

福岡町では、「銀の馬車道」沿線の景観を高めるため、中播磨県民局の補助を受け、辻川地区のまちなみ美化事業に取り組んでいます。

この事業の一環として、記念館と歴史民俗資料館の周辺の整備工事を行いました。

柳田國男生家から記念館、資料館に続く道と記念館前広場を美装舗装しました。そして、両館の外階段の一部にスロープを設置しました。

また、資料館では雨樋の改修工事と館内の照明器具をLED化しました。

整備により、各館を結ぶ道が整いました。装い新たに皆さまをお迎えする辻川界限へぜひ起こしてください。



# 編集後記

平成二四年度は、歴史民俗資料館にとって開館三〇周年の節目の年となりました。また、柳田國男没後五〇年であったことから、記念館にとっても節目の年であったといえます。

この節目の年に、両館の周辺を整備する工事を行いました。来館いただく皆さまに少しでも利用しやすい施設になったと感じていただけたら幸いです。

平成二五年度も、これまでの歴史に新たなページを加えられるよう、さまざまな事業・活動を行って参ります。

皆さまとの交流を通して、福岡町の歴史と文化を学び、それらを伝えていきたいと思えます。ぜひ、両館に足をお運びください。お待ちしております。

# うぶすな 第二号

平成二五年三月二十九日発行

福岡町立柳田國男・松岡家記念館

〒六七九・二二〇四

兵庫県神崎郡福岡町西田原

TEL 〇七九〇・二二一・一〇〇〇〇

# ◆ 休館日

月曜日（祝日は開館）、  
祝日の翌日（土・日は開館）

# ◆ 開館

午前九時〇〇分〜  
午後四時三〇分  
（入館は午後四時まで）